

# FMセミナー × F-DESIGN

—『バイオセボン・ジャポン』土谷美津子氏と『福島屋』福島徹氏を囲んで—



## 2017年2月2日(木)

17:00受付開始 17:30開始 20:30終了  
法政大学経営大学院新一口坂校舎301教室

昨年12月9日、日本中のオーガニック関係者・ディベロッパー・小売店等々からの注目を浴びつつ、ついにオーガニックスーパー『バイオセボン 麻布十番』が開店しました。その直後、12月20日には、福島屋が新店『FUKUSHIMAYA TASTING MARKET 秋葉原店』を開店。さかのぼること約半年、これら2店に先駆けて、ライフコーポレーションが新業態店舗『BIO-RAL(ビオラル)』を大阪に開店。どのショップも根底には「オーガニック&ナチュラル」というテーマが流れていますが、それぞれに特徴が異なる商圈で、三者三様の店作りが行われています。

長い間、“提携”や“宅配”などのクローズド・マーケットを中心に動いてきた日本のオーガニックマーケットですが、2016年は、一般市場において“オーガニック&ナチュラルに本気で取り組む小売店が続々と現れた年”となったのです。これをきっかけに2017年は日本のオーガニックマーケットが活性化し、のちにオーガニックの歴史を振り返った時、「2016～2017年はマーケット拡大のためのターニングポイントであった」と言えるようにしていきたいものです。

前回のフードマーケティングセミナーでは、『BIO-RAL』の竹下太氏をお招きし、新店舗設立の経緯と現状、さらには今後目指していくテーマについてお話しいただくとともに、ソーシャルイノベーションマガジン『オルタナ』のフランス在住記者・羽生のり子氏より、フランス本国におけるバイオセボンの展開状況や、フランスにおけるオーガニックマーケットの拡大状況についてレポートしていただきました。今回は、土屋美都子氏(バイオセボン・ジャポン株式会社 代表取締役社長)をお迎えし、店舗の現状と今後についてお話しいただいた後、福島徹氏(株式会社福島屋 代表取締役会長)にも加わっていただき、それぞれの店舗を拠点として日本のオーガニックマーケットをどのように育てていくのかを話し合っていきます。全国の生産者や流通関係者も熱く注目している両店舗の経営責任者が揃う機会はなかなかありません。どうぞお越しください！

【主催】(社)フードトラストプロジェクト

【共催】Fデザインプロジェクト 次代の農と食をつくる会

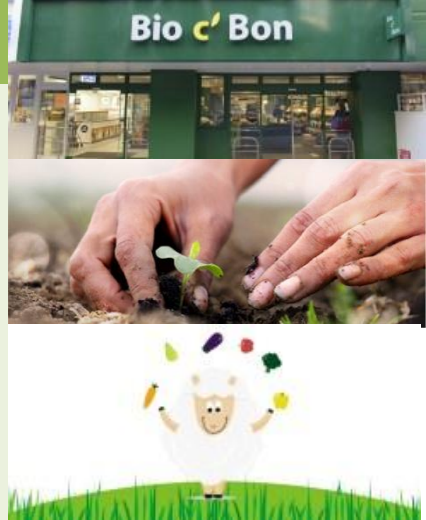
【協力】法政大学経営大学院小川孔輔研究室





**ゲスト**  
**バイオセボン・ジャパン株式会社代表取締役社長 土谷美津子**

1986年4月 ジャスコ株式会社(現イオン株式会社)入社  
 2001年3月 同社 マーケティング本部お客さまサービス部長  
 2003年5月 同社 お客さま担当兼CS部長  
 2006年5月 同社 執行役  
 2007年9月 同社 グループお客さま・品質管理担当  
 2008年3月 同社 グループ環境担当  
 2008年5月 同社 常務執行役  
 2008年8月 同社 執行役 グループ環境最高責任者  
 2010年5月 株式会社イオンファンタジー 代表取締役社長  
 2013年3月 イオンリテール株式会社 専務執行役員  
 同社 食品商品企画本部長  
 2013年5月 同社 取締役  
 2016年3月 オーガニック事業推進P/T  
 2016年6月 バイオセボン・ジャパン株式会社 代表取締役社長



**FMセミナー ファシリテーター**  
**小川孔輔**

1951年生まれ。東京大学経済学部卒。同大学大学院前期課程を修了、経営学に専門領域を転じる。大学院時代から、マーケティング・リサーチ、マーケティングのモデル分析などを主たる研究領域とする。法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科教授。日本フローラルマーケティング協会会長。『マーケティング情報革命』(有斐閣)、『当世ブランド物語』(誠文堂新光社)。(編著)『ブランド・リレーションシップ』(同文館出版)、『有機野菜の流通とマーケティング』(農文協)、『マネジメント・テキストマーケティング入門』(日本経済新聞出版社)など、著書・翻訳・編者多数。



**F-DESIGN 福島屋**  
**福島徹**

1951年東京都生まれ。大学卒業後、家業の福島屋を継ぎ、酒屋・コンビニを経て、34歳の時に現在の食品スーパー業態に転換。安売り・大量販売とは一線を画した手法で、現在はスーパー・レストラン・生花店など合計9店舗を運営し、自己資本比率80%を超える安定した資本構成を誇るに至る。20年ほど前から農家との直接取引を開始し、多くの生産者が農業で生計を立てていくのが難しい状況であることに目を向け、販売する立場から何か役に立てることはないかと考えるようになった。農業と商業の橋渡しこそが自らのミッションであると定義し、農業支援の姿勢を貫いている。還暦を迎えた年に(株)福島屋の社長職を長男に譲り、自身は会長に退いた。現在は、自らに課したミッションをより直接的に果たすために、農家の経営指導・地域振興・スーパーマーケット支援などを専門に行う(株)ユナイトを立ち上げ、代表取締役社長を務める。デジタル雑誌『食べるヒント』編集長。著書に『食の理想と現実』(幻冬舎)、『食を整える』(真入堂)がある。また、NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」出演時の映像は『食品スーパー経営者 福島 徹の仕事 信頼は己の全てでつかみとる』というタイトルでDVD化されている。



**FMセミナー コーディネーター**  
**徳江倫明**

1951年生まれ。早稲田大学卒。1978年、日本初の有機農産物専門流通団体「大地を守る会」の創業メンバーとして共同購入システムの開発・卸物流の開発を手がける。1988年、有機農産物宅配システム「らでいっしゅぼーや」を興し、1999年まで代表を務める。2000年、有機JAS認証機関を設立。現在も、生産者と販売者のコーディネートやオーガニックマーケットの拡大に奔走するなど、食の安心・安全や環境保護に関する新しい取り組みに挑戦し続けている。一般社団法人フードトラストプロジェクト代表理事。一般社団法人生きもの認証推進協会代表理事。NPO法人IFOAMジャパン 副理事長。株式会社オーガニックパートナーズ代表取締役会長。著書に、『農業こそ21世紀の環境ビジネスだ』(たちばな出版)、『危ないものを作りすぎた』(誠文堂新光社)がある。

マーケティングの見地から日本の食ビジネスを分析してきた法政大学大学院・小川孔輔教授をファシリテーターに、日本のオーガニック業界を牽引してきた徳江倫明が、食品の生産・流通・販売等を手がける「旬な仕掛け人」を毎回ゲストにお迎えして開催するユニークなセミナー。「業界の裏事情は?」「注目のあの会社は、いったいどこへ向かうのか?」「最先端のマーケティング理論で予測する近未来のマーケットは?」等々、話題の人・企業・業界を、話術という名のメスで解剖していきます。「ここまで言わせてしまっても良いものか?」と思わせる、小川教授と徳江倫明の「メスさばき」にご注目ください。食の業界に携わるすべての方々に。

【CONCEPT】1. 素材を大切に。2. 家庭の食を整える。3. 四位一体【What is F-DESIGN?】食からつくる、未来のこと。食はboomではありません。人が生きる根本を支えるものです。この「食」をあらためて見つめ直し、本来あるべき形に整える取り組みが「F-DESIGN」です。作物を作り、加工・販売し、生活者が料理し、食べる。その流れに関わるすべての人たちが一緒になって食を支える事業プロジェクトです。【F-DESIGNの未来設計図】四位一体。F-DESIGNの仲間、今ここで生活している私たちひとりひとりです。生産者、製造加工業者、販売者、購入者の四者が、それぞれF-DESIGNを我がこととしてとらえ、食を整えるために何ができるのかを考える。すると、どんな未来が拓けるのでしょうか。

《プログラム》※敬称略

- 17:30 ご挨拶 徳江倫明
- 17:45 講演 『Bio c' Bon(バイオセボン)麻布十番店』出展の狙いと今後の展開  
 バイオセボン・ジャパン株式会社 代表取締役社長・土谷美津子
- 18:35 休憩
- 18:45 トークセッション  
 小川孔輔／法政大学経営大学院教授(ファシリテーター)  
 土屋美都子／バイオセボン・ジャパン(株)代表取締役社長  
 福島徹／(株)福島屋 代表取締役会長  
 徳江倫明／(社)フードトラストプロジェクト代表理事
- 19:40 質疑応答
- 20:00 閉会／名刺交換会
- 20:30 会場クローズ

- ◆場所◆  
 法政大学経営大学院  
 (新一口坂校舎)301号室
- ◆参加費◆  
 5,000円(税込)

お申し込み  
<http://food-trust.jp/seminar100/>

(社)フードトラストプロジェクト  
 TEL:03-3523-0028 MAIL:ftpinfo@food-trust.jp